

登録コード	UAA26500	開講年度	2026				
授業題目	文化情報論実践演習			担当教員	菊池 聡		
				副担当	佐藤 広英・木村 宏人		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・6時限		
			授業形態	演習			
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				行動科学（社会学、心理学など）の知見を継承し、現代の社会の諸現象を批判的に分析することができるようになる。		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				現代社会の諸現象を対象とした計量的なデータ分析のスキルの一部を使いこなせるようになる。		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				オリジナルな視点からの研究プロジェクトを立案・実施・発表する過程で、自分の計画を実現するための十分なコミュニケーション力を身につけることができる。		
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				文化情報論の複数の学問領域とその知見や分析方法を総合的に体験することで、学際的な調査分析能力を身につけることができる。		
(2)授業の概要	出版物やインターネット上に蓄積されている言語情報を計量的に分析する技法であるテキストマイニングを中心とする内容分析の手法について実践的に習得する。そして、この技法をもとに膨大な情報の信頼性や妥当性を評価して、社会事象に対する批判的な思考力を養っていく。 授業では、まずインターネット上に蓄積されているテキストデータを利用して、現代社会のリスク事象に関する諸課題（科学リテラシーやネットリテラシー、リスク・コミュニケーションなど）をテーマに具体的な調査課題を設定し、テキストマイニングにもとづくデータ処理と分析を体験し、自然言語処理と統計的解析に必要なプログラミングの技法を習得する。その上で学生は、社会に対するそれぞれの問題意識にもとづいて、オリジナリティのある研究対象と方法をディスカッションの上で設定し、適切な内容分析を行って成果をまとめ、発表と議論を行う。						
(3)授業計画	授業計画 授業内容と進行は調査実施の都合にあわせて柔軟に変更される。 第1回：内容分析の研究と技法について知る 第2回：自由記述データに対するテキストマイニングの研究事例 第3回：出版物に対するテキストマイニングの研究事例 第4回：リスク事象を対象としたテキストマイニング調査1の問題設定 第5回：リスク事象に関するデータの体系的な収集とKH Coderを用いた処理の方法 第6回：形態素解析と抽出データ処理 第7回：言語データの基礎的整理と分析 第8回：リスクに関するコレスポネンス分析とデータのマッピング 第9回：学生調査企画・問題設定 第10回：リスクに関する調査2の計画立案と試行 第11回：データの体系的な収集と検討 第12回：形態素解析とデータ処理 第13回：リスクとコミュニケーションに関する総合的な分析と結果の検討 第14回：成果発表とディスカッション 第15回：全体の振り返りと発展事例について 期末試験の有無：無						
(4)成績評価の方法	テキストマイニングと統計的分析の習得レベルと（50%）と調査の企画実施・最終成果発表(50%)の内容で評価する。						
(5)成績評価の基準	テキストマイニングや統計分析手法が応用可能なレベルに習得され、かつ、素材とした社会事象に対する多面的な考察が十分に深められていれば『卓越している』と評価する。テキストマイニングと統計的分析法が確実に習得され、かつ社会事象への独自の観点からの考察が行われていれば『かなり上にある』、標準的なテキストマイニングとそのデータ分析が完遂され、かつデータにもとづいた考察が行われていれば『その水準にある』と評価する						
(6)事前事後学習の内容	分析で用いるKH-CODERや統計分析ソフト、プログラミング言語などについては、授業中に基本的な使用方法を説明するので、各自が十分に応用可能なレベルで分析が実施できるように事前・事後学習を行うこと。						
(7)履修上の注意	本授業参加にあたっては、社会調査士取得相当、もしくは公認心理師取得相当の推測統計学の基本（統計的検定や多変量解析）が習得済みで、自力で調査と統計的分析が実施可能であること。						
(8)質問、相談への対応	信州大学のLMSであるeALPS上に、質問や相談への対応システム（バーチャルオフィスアワー）を設定してこれを用いる。これで対応できない相談等は直接対応するので、eALPSのメールシステムから直接教員へメールし、アポイントメントを取ること。						
【教科書】	樋口耕一(2014).『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版						
【参考書】	松村真宏・三浦麻子(2014).『人文社会科学のためのテキストマイニング』誠信書房						